

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4590200145		
法人名	社会福祉法人 スマイリング・パーク		
事業所名	グループホーム スマイリング・パーク	ユニット名	スマイル①
所在地	宮崎県都城市丸谷町359番地1		
自己評価作成日	平成30年9月9日	評価結果市町村受理日	平成30年12月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成30年10月25日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者おひとりおひとりの生活習慣や嗜好、その日の体調、想いや考えに寄り添うことで、認知症やその他の疾患があっても、その方らしい生活が日々送れるような支援に努めています。睡眠状況確認やナースコール、携帯端末での記録、音声入力システムなどのICT(情報通信技術)、各種リフトなどの介護機器など、利用者の方へも負担が少ないように、そしてゆっくりとケアの時間や関わりの時間が持てるようにしています。ご家族や地域住民の方との交流や関わりが継続できるように、様々な行事のご案内や地域住民の方を対象とした教室活動をホーム内で実施するなどして、地域の方々への貢献が行えるように工夫しています。また、職員教育についても法人内の研修についても積極的に参加し、様々な分野のエキスパートから多角的な視野で学習できる環境があります。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホーム近隣には法人の主体である特別養護老人ホームがある。ホームは入浴機械などの設備や、カルテなどの記録に様々なOA機器などを利用し、職員の事務負担の軽減を図ることで、入居者に対するより細やかなケアが出来る体制を整えている。また職員一人ひとりが入居者はもちろん来訪者にも笑顔で接遇することで、入居者やその家族はもちろんホームに関わる人たちの気持ちの良い関係構築に取り組んでいる。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63		○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	スマイル①	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念についてやその内容を会議の中で話し合ったり、共有を行っている。また、定期的に申し送り簿に、理念に沿ってケアができていかなどを各自考え、実践できるようにしている。	理念にある「笑顔」を大切に入居者に接することに重点を置いており、入居者が笑顔で毎日が過ごせるようにケアの実践を行うとともに職員も笑顔を決やさない接遇に取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区の公民館に所属して、夏祭りや地区の掃除、こけない体操への参加に加え、散歩などの活動の際に地域の方と挨拶や世間話をさせてもらったりしている。	自治会に加入し、地域の夏祭りや掃除などの活動に参加したり、近隣の方の参加できるパン作り教室などをホームで開催し、地域との交流に取り組んでいる。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	民生委員の方へご相談やご協力頂き、地域の住民の皆様向けのパン教室と教室の後茶話会や事業所の見学などの活動を2か月に一回程度、施設内で実施している。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者様の現況報告や施設での活動状況を写真や動画をいながら報告している。議事録は各ユニットにファイリングしたり、パソコン内にもデータがあり、各職員が内容を共有している。会議内での意見などは管理者、主任を中心にフィードバックし、更なる向上を目指している。	地域の民生委員、公民館長をはじめ、法人の関係者、行政、学校教育機関など多種多様な方が会議に参加し意見交換が行われ、その内容はホーム職員が共有し、ケアやホーム運営に反映されている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	管理者を中心に、事業運営にかかる細かい内容や法制度等についての質問等を市役所介護保険課、役場(分所)担当者と毎月直接訪問、電話、メール等でやり取りを行い、協力をもたらしている。	運営推進会議への参加以外に、市役所支所への訪問など直接訪問を行い、入居者のケア内容をはじめ様々な内容について意見交換・共有を行い、協力体制の構築に取り組んでいる。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所内の年間研修計画をもとに研修・勉強会を実施。また、今年の介護保険法の改正に伴い、運営推進会議の場や毎月の職員会議内で周知している。日々のケアの中でもスタッフ間で意識し注意合っている。日中は玄関の鍵は開錠しており、出入りが自由に出来る様にしている。	事業所での研修・勉強会により身体拘束の廃止及び行わないケアの実践に取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内の年間研修計画に職員勉強会を組み込んでいる。また、事業所のケア内容・指針にも組み込まれており、職員会議等でも機会があるごとに、虐待防止について学習したりしている。			

自己	外部	項目	自己評価	スマイル①	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業所内の年間の研修計画(勉強会)に組み込んでいる。新人職員でもわかりやすい事例や資料を用いて権利擁護や成年後見人等の制度について研修している。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族の時間が許せば、契約や重要事項説明については、入所前に時間を設けて頂き、十分に時間を取って説明するようにしている。また、契約内容等に変更があった際には、その都度文章や口頭で説明するようにしている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にご家族にも参加して頂き、直接要望や意見を頂けるようにしている。玄関のご意見箱に筆記用具を設置するなどして利用者家族のご意見が反映できるようにしている。ご家族のご意見があった際には、ケース記録内に個別の意見欄を設けており、なるだけ細かい内容まで記載するようにしている。		「家族会」を随時開催し、入居者個人の自室内の配置や施設行事の日程の決定など家族がケアや運営に意見を出しやすい環境作りに努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月ユニット内のミーティングを実施したり、管理者やユニットリーダーが定期的に個別に面談を設け、利用者のケアに関することや業務についての提案などを反映している。		毎月のユニットごとのミーティングや管理者とユニットリーダーの定期的な面談以外にも随時職員と意見交換を行い、その場で解決を図り、ケアや運営に活用している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員との面談の時間を設けるなどし、職員の労働時間や回数、労働の内容等各個人の状況に合わせた働き方ができるように配慮している。法人全体の人事考課制度が整備されており、事業所以外の役職者全員で、職員の頑張りに応えることが出来るようなシステムになっている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	プリセプター制度を実施しており、新人教育の目標、達成度等の評価をチェック表や振り返りシート等を用いて教育している。基本的な職員育成期間の目安は設けているが、必要であれば延長し不安なくケアが出来るように支援している。法人内外の職場外研修に積極的に参加している。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の他事業所の介護スタッフや都城市の介護職や医療職で開催されている事例検討会に積極的に参加し、情報共有を実施している。			

自己	外部	項目	自己評価	スマイル①	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者やご家族からの意見を細かく記録に残すようにしている。各利用者の担当のスタッフを中心に、個別のケアが実施できるよう、内容を記録・スタッフ間で話し合い共有し、経験の浅い職員も対応に迷うことがないように、利用者個別の対応のデータをまとめている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	基本的にサービス利用(入所)前は、自宅や施設等に出向き、ご家族やご本人と面会の上意向や要望を伺うようにしている。また、そこで得た情報については、パソコン上の申し送りなどに記載して職員間で共有している。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用申し込み相談時など、ご家族やご本人の生活や現状を伺い、様々なサービスのご紹介に留まらず、必要であれば他のサービス事業所への取次ぎや相談も実施している。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日の調理や掃除など、利用者へご相談し、一緒に行って頂くのみでなく、方法や知恵などを教えて頂くなどしている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時を中心に、ご本人の施設での生活の様子などを動画や写真等を活用してお伝えするようにしている。また、居室のカレンダーや手紙などを利用してご本人の様子や感謝の気持ちをお伝えしている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所をご本人やご家族から伺い外出したり、友人やご親戚の面会時はゆっくりと過ごして頂けるように喫茶スペースへのご案内や写真を記念にお取りするなどし、関係の継続ができるように支援している。	家族の協力のもと、馴染みのある環境への外出や定期的な外出・外泊への支援をホームとして行うほか、知人等の来訪時にはゆっくり過ごしてもらえ環境作りと配慮に取り組んでいる。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の会話や様子を記録に残し、それぞれの関係性を把握し、テーブルの座席の配置や関わり方などを工夫し、なるべく利用者同士の関係がストレスとならないようお互いが助け合って生活して頂けるように支援している。			

自己	外部	項目	自己評価	スマイル①	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設等へ移動される際にも、ご家族の承諾を得た上でご本人のこれまでの生活状況やケアの実施内容など細かな情報提供を行っている。また、スタッフも、馴染みの利用者の方と一緒に面会を行うなど関係性の継続に努めている。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の中での利用者の言動や意見を記録へ細かく残し、また、ご家族へも情報を共有しながら、利用者の気持ちを可能な限りくみ取れるようにしている。		日常的な記録を細かくにとること、その情報を家族とも共有することなどで利用者の思いや馴染みのある生活が継続できるように支援を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴等を利用者本人やご家族へ確認しながら、主食の好みや飲み物等出来る限り細かく希望を、記録や申し送り簿に記載の上情報共有し、支援している。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタルや言動、表情等の変化などに注意し、変化があった際には各勤務帯の職員間で申し送りを行い、その日の細かな変化や状態把握をするように努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員中心に毎月のモニタリングやユニット内の会議で、利用者のケアについて、職員間(プランナー含む)で検討したい事項を話し合い、ご本人のニーズに合わせたプラン作成に反映できるように努めている。		モニタリングや再アセスメントなどを各担当職員が行い、ユニットごとでの会議にて情報の共有や意見交換を行い利用者や家族の意向、利用者自身の心身の状況に応じた介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の言動やスタッフが実施したケア等を細かく記録するようにしている。ケース記録に動画や写真を添付し、データの分析を実施したりすることで、その都度ご本人の状況に合わせたケアの実践、計画の見直し時に反映している。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	歯科医師の往診や協力医療機関などへ、利用者の状況報告やケアについての相談を実施し、支援をもらっている。ご家族等からの外出や自宅外泊等の意向があった際には随時柔軟に対応している。			

自己	外部	項目	自己評価	スマイル①	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	万が一の事態に備えて、警察署へ巡回の依頼や防災面で消防署への相談を行っている。また、施設周辺の住民の方々からも利用者の見守りなどの支援を頂いている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の協力が困難な場合には、協力医療機関の医師の隔週一回の往診の協力を頂き、状態変化時などご家族への状況説明等頂いている。専門医の受診についても、受診時情報提供書や紹介状、電話での情報共有を図っている。	協力医院の医師の往診をはじめ、家族等の希望に応じて各専門医の受診を家族の協力、施設の支援を通じて行っている。同法人内には訪問看護も併設され医療態勢が整えられている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同法人内の訪問看護ステーション看護師の週1回以上の訪問を受け、利用者の医療面での相談・連携を図っている。また、パソコン上の申し送りや記録にて情報共有を行っている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご家族の承諾を得た上で、医療機関の相談員や看護師に対して、施設での生活状況やケアの詳細についての情報提供を実施している。家族希望時には病状説明等にも管理者が立ち会い、医療機関との協働に努めている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所された日、半年を目安としたケアプラン見直し毎に、“看取りに関する意向書”の説明と確認を行い、書面で意向確認している。体調変化時には医師や看護師も交えて状況説明を行い、その都度重度化、終末期を迎えた際の意向確認をしている。	入居時や必要時に家族に看取りに対する意向の把握や入居者本人の心身の状況の確認を医療機関や家族とともにしながら、入居者本人や家族の望む終末期を穏やかに過ごせるように支援体制を整えている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年間の施設内研修計画に基づいて、施設緊急時のマニュアルを確認、訪問看護ステーションの看護師を講師として応急手当等の研修を行っている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年間防災計画に基づいて、年2回の総合防災訓練の実施、消防署署員や防災関係業者の立ち合いをもとに、避難誘導や施設の消防設備、消火設備の使用について訓練実施している。また地域の消防団へも施設の概要や緊急時の支援についても依頼している。	定期的に地震や火災、その他自然災害を想定して消防署や防災関係者と一緒に避難方法や防災機器の使用について訓練を行っている。地域の消防団とも協力体制が構築されている。		

自己	外部	項目	自己評価	スマイル①	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者のペースに合わせて、特に排泄・入浴ケアの際のお声掛けの仕方や声の大きさなど羞恥心への配慮、プライバシーの保護に努めている。敬語を使用し、言葉使いについても口頭であったり申し送り簿を活用しながら職員間で啓発をしている。	入居者本人を尊重した呼称での声掛けを行っている。その他にもその日の心身の状況に応じて声掛けや誘導のタイミングを状況に応じて行うよう取り組んでいる。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の意向や意見を踏まえた上で、その日の調子などを、ICT機器のデータやご本人に直接確認して、離床・臥床の支援から、食事の提供(嗜好)など工夫した支援をしている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴や食事、運動など、その日の体調やご本人のペースに合わせてるように意向を確認し、ご本人の状況に合わせて時間の調整など工夫している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日の朝の洋服の選択や、お化粧の習慣があった方などは毎朝のお化粧と髪結いを行い、鏡を一緒に確認して頂く。髭剃りなどの支援など行い、その方その方に合わせた身だしなみやおしゃれの支援を行っている。夏祭りや敬老会などの行事の際には、ご家族の協力を頂き、浴衣やスーツ、ワンピースなどを着用頂き会に参加頂いている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	味噌汁や副菜などは利用者へ具材切りや味付け、もしくは味見などを行ってもらっている。可能な方はご飯とお味噌汁もご自分で配膳して頂いている。	利用者個人の能力に応じて調理の準備等に参加するほか、余った具材で入居者個人が副菜を調理し、一品足したり、お味噌汁・ご飯を自分で好きな量でよそったり、個人に合わせた食事の提供に取り組んでいる。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	嗜好に合わせてるようにテーブルに調味料を準備している。嚥下の状態に合わせて食事や水分の形態を準備し、利用者個々の1日に必要な水分摂取量を算定し、それに合わせて提供するようにしている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	基本的には毎食後、利用者の状況に合わせた口腔ケアの促しや介助を実施している。その中で義歯の不具合や口腔内の異常があった際には看護師や家族へ報告し、かかりつけの歯科医師へ診察して頂くように情報共有や連携に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	スマイル①	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄や誘導のタイミングを、排泄やケース記録からデータ分析実施し、尿量や身体機能に合わせたパッド等の使用を行っている。オムツやパッドの重ね使い等をせず、ただ下着と同じような感覚でトイレでの排泄を継続して頂けるように支援している。	入居当初はリハビリパンツを使用していたが、排せつの回数・尿量・時間などを詳細にデータ化することで排せつパターンを把握し、布パンツを使用するなどおむつの使用軽減に取り組んでいる。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の間隔の把握や、記録から時間やタイミングを計り誘導を行うなどのほかに、食物繊維等の栄養補助食品が有効な方は飲用して頂いたり、マッサージや運動、水分量は適切か確認している。看護職への相談も実施している。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴希望時に浴えるように他の利用者の希望等を鑑みて支援している。入浴をあまり好まれない方については、その方の日内の心身のリズムの変動や興味を持って頂けるような声掛けなどの支援を記録にし、それをもとにスタッフが協力を支援している。	週2回の入浴を可能な限り入居者の望む時間帯で実施しているほか、好きな音楽などをかけながらゆっくり入浴を楽しめる雰囲気作りに努めている。身体状況の重度化に合わせて入浴の機械なども整っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ICT機器導入に伴い、睡眠状態のデータや職員の情報から、不眠の原因や傾向を分析し日々の活動や居室内の環境を工夫している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容一覧をファイルにし、すぐに確認できるようにしている。内服薬の処方変更時には記録や申し送り、服薬チェック表等の記載修正を行い、情報共有に努めている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	園芸や調理、食器洗い等、これまで行ってこられた仕事や活動等の経験を活かして頂けるように支援している。買い物やドライブなど気分転換に対しての支援を実施している。身体機能の重度な方などに対しての気分転換や楽しみごとへ支援についてより工夫できないか検討している。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	施設周辺の散歩やごみ捨て等日常的に施設敷地外や屋外で過ごすように支援している。買い物や自宅への外出などもご家族の支援をもらいながら実施している。花見などの行事以外にも地域住民やボランティアの方の協力や交流をもらい、カフェなどへ参加をしている。	地域の収穫祭や季節の花を見に行ったり、特別養護老人ホームと一緒に月1回カフェの開催など定期的な外出をはじめ近隣との交流・関係性の継続に取り組んでいる。		



自己	外部	項目	自己評価	スマイル①	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	各自ご家族の協力と理解を頂き、お財布と少額のお金をご本人に持って頂き、買い物やカフェなどへの外出の際は、必要な部分のみスタッフが支援して、ご自分のお財布からご自分でお支払い頂いている。領収証や買い物をされた際はなるべく写真を活用し、ケース記録記載しご家族にも報告している。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠方のご家族へのお電話やお手紙(写真を同封するなどして)のやり取りを継続して実施支援している。携帯電話使用されている方については、電池残量や故障しないように取り扱いの配慮や支援を実施している。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	地域住民の方が季節の花を持ってきて下さり、その花を飾るなどしている。庭先に季節の花や植物を植えたり、朝日の調整や調理の音や香りを感じ取ることができるか配慮している。職員間の会話の大きさ、トーンなど生活音の邪魔にならないように職員間で注意し合い、配慮している。	近隣の方が差し入れてくれた草花をホーム内に飾り季節を感じられるほか、中庭の草花の手入れを職員・入居者が一緒に行うことで四季を感じる事が出来る。来訪に合わせた喫茶室や明るい雰囲気のある食堂など過ごしやすい環境整備に取り組んでいる。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内や廊下の窓際など、他者の存在を感じることでできる範囲内で、一人や2~3人の気の合う関係の方同士で落ち着いて過ごせたりするソファの配置や椅子・テーブルの配置を行っている。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族の協力を頂き、入所される前までに設えの準備と設置を実施している。家族やかわいがっているペットの写真、お気に入りの人形や、馴染みの家具、仏壇を持ってきていただくなどして居室の設えを工夫している。	家族の協力のもと可能な限り馴染みのある写真や家具を持ち込んで生活環境の再現に取り組んでいる。各居室に洗面所等も整備され、入居者本人の整容等にも配慮が行われている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご家族の協力を頂きながら、歩行時に支えになるように家具の配置を行ったり、家具の角などの保護シートや床の絨毯・マットなどを工夫している。ご自分の思うように生活して頂きながらも、記録からご本人の行動分析を実施した上で利用者の心身の負担にならないように見守りを実施し、可能な限りリスクを除去している。			